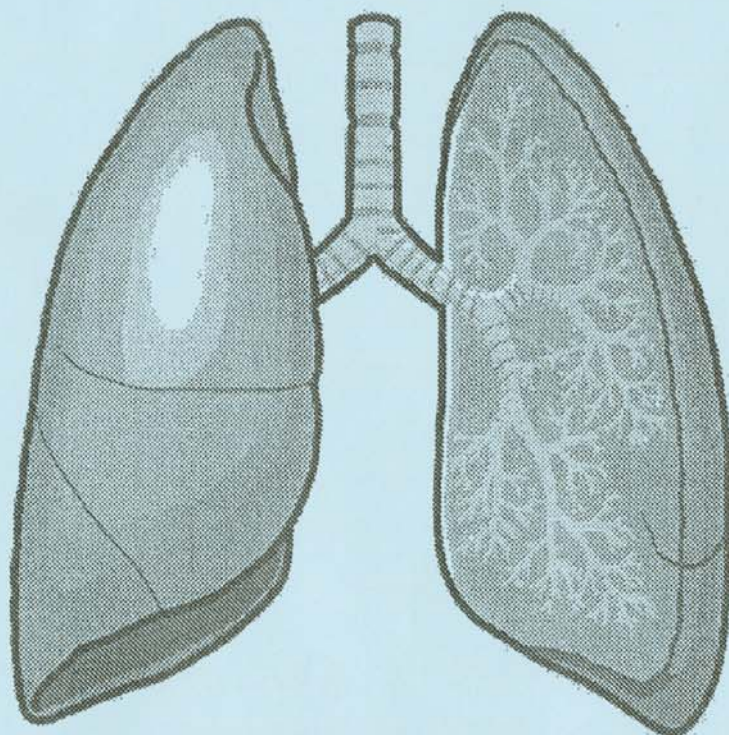


くすりと健康 NO.50

2010年7月発行

COPD

(慢性閉塞性肺疾患)



喫煙者が9割を占める病気です！

発行 (株)東京医療問題研究所 〒164-0001 中野区中野 5-47-10 Tel.03(3389)7110

発行責任者 平林政子

COPD ってなあに？

COPD は Chronic(慢性) Obstructive(閉塞性) Pulmonary(肺) Disease(疾患)の略で、肺気腫や慢性気管支炎などが COPD に含まれます。

タバコなどの有害な空気を吸い込むことによって、空気の通り道である気管支や、酸素の交換を行う肺(肺胞)などに障害が生じる病気です。その結果、空気の出し入れがうまくいなくなるので、通常の呼吸ができなくなり、息切れなどが起こります。

ゆっくりと少しずつ進行していくため、なかなか病気に気づきにくいですが、一度悪くなった肺は元に戻ることはありません。

そのため病気の進行を少しでも遅らせることが大切です。

どんな症状？

主な症状は息切れです。特に体を動かしたとき、例えば階段の上り下りや坂道を上るときなどに息切れがします。また、同年代の人と並んで歩いていて、他の人の歩くペースについていけないといったこともみられます。

咳や痰がしつこく続くことや、風邪・運動時に喘鳴(ゼーゼーする)が起こるのも、COPD の特徴です。



禁煙は治療の第一歩！

COPD の患者さんの 90%以上は喫煙者です。長期にわたる喫煙者のうち 7 人に 1 人が COPD になると言われており、COPD は肺の生活習慣病と呼ばれています。

タバコの煙に含まれるニコチン、タール、一酸化炭素などが気管支や肺を傷つけることにより、肺胞が壊れたり、気管支に炎症が起きたりします。

治療としては、まずは禁煙することが必要です。節煙では効果がありません。タバコをきっぱりやめて適切な治療を受ければ、病気の進行を遅らせ、息切れなどの症状を楽にすることができます。また、禁煙は呼吸機能の低下を抑え、死亡率を減少させます。COPD の発症を予防するためにも禁煙が必要です。

(禁煙のことに関しては、くすりと健康 No.40 の「禁煙外来」も併せてご覧ください)



どんな薬で治療するの？

COPD の治療で使う薬は気管支拡張薬、ステロイド薬、去痰薬です。

●気管支拡張薬…COPD の治療の基本となります。

気管支を広げ、空気の通りを良くするので、息切れなどの症状を改善できます。

気管支拡張薬はさらに大きく3つに分類にされます。

分類・働き	薬の名前(剤形)	効き目の長さ	
		短時間	長時間
抗コリン薬 気管支の太い部分を広げる	スピリーバ(吸入薬)		●
	アトロベントエロゾル(吸入薬)	●	
β2 刺激薬 気管支の細い部分を広げる	セレベント(吸入薬)		●
	ツロブテロールテープ(貼り薬)		●
	ホクナリンテープ(貼り薬)		●
	メプチン、メプチンミニ(飲み薬)	●	
	ベネトリン(吸入薬・飲み薬)	●	
	メプチンエアー(吸入薬)	●	
	サルタノールインヘラー(吸入薬)	●	
テオフィリン薬 気管支を広げる	テオスロー、テオドール(飲み薬)	●	
	ユニコン(飲み薬)		●

気管支拡張薬には、毎日定期的に使用する長時間作用型のものと、息苦しいときに使用する短時間作用型のものがあり、症状によってはこれらを組み合わせて使用します。

息切れの症状が強いときには、体を動かす前、運動をする前に使うと効果的です。息切れが続いているときには、効果が長時間持続するタイプの吸入薬が勧められます。



気管支拡張薬の他には、以下のような薬が使われます。

分類	働き	薬の名前(剤形)
ステロイド薬	気管支の炎症を抑える	フルタイド(吸入薬) キュバール(吸入薬)
ステロイドとβ刺激薬の配合薬	気管支の炎症を抑え、狭くなった気管支を広げる	アドエア(吸入薬)
去痰薬	痰を出しやすくする 痰をやわらかくする	ムコソレート、レベルボン、ムコダイン(飲み薬)など

日常生活での注意点は？

COPD の患者さんは急激に呼吸困難などの症状が悪化し、入院が必要な「急性増悪」を起こすことがあります。多くの場合、風邪やインフルエンザなどの感染症がきっかけで起こります。

38 度以上の発熱、痰の色や性状の変化、息切れの悪化、むくみなどありましたら、早めに受診してください。

予防するには風邪やインフルエンザにならないように、こまめに手洗いやうがいをしましょう。インフルエンザワクチンを接種することで COPD 悪化による死亡率が50%低下すると言われています。COPD の患者さんはできるだけワクチンの接種を受けましょう。



ワクチンの他にも、栄養管理や呼吸器リハビリテーションなどを医師・専門スタッフの指導を受けながら行い、急性増悪を予防することが重要です。

参考文献 COPD 診断と治療のためのガイドライン第3版

COPD の情報サイト スピネット・今日の健康 2007.11